

## 「お嬢さん、お待ちなさい♪」

— 中国語の呼びかけ語をジェンダーで斬る —

西 香織

「呼びかけ語」は「呼称語」とも呼ばれ、対称詞 (address terms) の「呼格的用法 (vocative use)」(鈴木、1973)、つまり、対話の相手を直接呼ぶのに用いられる名詞 (句) のことを指す。中国語<sup>1)</sup>の呼びかけ語は、相手に対する親しみを表したり相手に注意を向けさせたりするために使用されるが、相手への敬意を示す手段としても積極的に使用され、さらに、単独で目上の人に対する「あいさつ」としても機能する、という点で日本語とは大きく異なる。たとえば、ある朝、学生が大学で先生と出会った場合、日本語では「おはようございます」という定型表現が最も多く用いられるが、中国語で最も多くみられるのは“XX老师!” (“XX先生!”) や“老师早!” (“先生、おはようございます!”) であり、敬意を示すべき目上の相手に対しては、あいさつのみならず、お礼やお詫びの言葉を述べたり、それに応答する場合にも、呼びかけ語がほぼ必須の要素となっている (曲・陈、2001、西、2011)。

中国語文化圏にはさらに、相手に対する敬意を示すために自分よりも一世代もしくは二世代上に当たる親族名称を用いて呼びかけるという伝統的慣習があり、女子大学生が小学生から“阿姨”(おばさん) と呼びかけられることも珍しくはなかった。しかしこの慣習は都市部の若年層・中年層を中心に急速に消滅しつつある。敬意を示されることよりも少しでも若く扱われることを望む、という価値観の変容が生じたからである。一方で、高年齢層や農村地域では伝統的な価値観も根強く残っており、二つの異なる価値観が一社会の中で衝突し、大きな混乱が生じている。90年代に当時50代の日本人女性が中国に旅行に訪れた際、現地の子どもに“奶奶”(おばあさん) と呼びかけられたのが、70代で中国を訪れると今度は“阿姨” と呼びかけられたといったエ

ピソードも聞かれる。呼びかけ語の若返り現象が起こっているのである。特に女性のほうが男性よりも呼びかけ語に過敏に反応する傾向がみられ、20世紀末には、面識のない若い女性に対して“(小) 姑娘!” “小姐!” (お嬢さん) と呼びかけることができたが、現在は慎重に呼びかけ語を選ぶ必要があり<sup>2)</sup>、相手のフェイスを脅かすリスクを避けるために、面識のない人には親族呼称を用いない、さらには呼びかけ語自体を用いない (ゼロ呼称)、という現象も見られるようになった。

面識のない女性への呼びかけ語がないという「難局」を乗り越えるため、21世紀に入ってまもなく、特に都市部において、相手の容姿とは無関係に、女性に対して“美女”(美女 / pretty girl)、男性に対しては“帅哥”(イケメン / handsome guy) という呼びかけ語が広く使用されるようになり(邵, 2009)、親しみを込めた“亲愛的”(英語の dear, darling の翻訳)などの呼びかけ語も使用され始め、女性の店員が女性客に向かって使用することも珍しくなくなった<sup>3)</sup>。同時に、もともとあいさつ語であった“你好!” (こんにちは) が面識のない人への呼びかけ(ゼロ呼称)に広く使用されるようになり、人に何かを尋ねるときの「すみません」や、「はい」(応答)といった意味でも使用されるようになって現在に至る。この点では、中国語はゼロ呼称が多用される日本語にかなり近くなっており、日本語に翻訳しやすくなったと言える。では、“美女”や“帅哥”といった呼びかけ語はどうすればよいか。

冒頭のタイトルは童謡(アメリカ民謡)『森のくまさん』の歌詞の一部であるが、現在は日本語も中国語も「お嬢さん」、「小姐」「姑娘」等と言って面識のない女性を呼びとめることは難しい。“美女”は汎用性が高くなったものの、いつでも誰にでも使えるわけではなく、またすでに衰退の兆しも見られ、その後生まれた呼びかけ語も定着を見ない。

中華人民共和国の建国以降しばらくは“同志!” (同志よ) 等、ジェンダーを明示化・有標化しない呼びかけ語が中心であった。呼びかけ語以外でも、自分の夫や妻を“爱人”(配偶者) と言う等、ジェンダーを明示化する表現が排除されるような時代が続いたが、改革開放後(特に90年代以降)はジェンダーを明示化する表現の復権が一気に進んだ<sup>4)</sup>。このような現象はゼロ呼称としての“你好!” の使用の増加と一見、相反するように見えるが、“你

好!”(ゼロ呼称)の使用は女性に多いことが指摘されており(李、2015)、呼びかける側としても呼びかけられる側としても、女性のほうが呼びかけ語の内包する意味に対してより敏感であることを示唆している。つまり、女性に対する呼びかけ語の変遷とゼロ呼称の増加には密接な関係があると考えられる。

最後に、近年、日本で出版された中国語教材はどのように中国語の呼びかけ語を扱っているかに触れておく。ゼロ呼称としての“你好!”や“美女”等は登場せず、いまだに“小姐”等が出ていることもあり、事前の指導なしでは、通常、学生たちは“小姐”を日常の日本語では使用しない「お嬢さん」と翻訳してしまう。授業における翻訳作業を、母語(日本語)を客観視・再認識する機会にするために、「お嬢さん」を「すみません」(ゼロ呼称)または「お客様」とする等、できるだけ場や場面に応じた日本語らしい翻訳を意識させることが必要であろう。

## 【注】

- 1) 本発表では主に中華人民共和国で話される共通語としての中国語(普通話)を扱う。
- 2) 同じ中国語文化圏でも、台湾では、もともと未婚かつ良家の若い女性に使用されていた“小姐”が英語の Miss から Ms. の意味のように発展し、さらに汎用性が高まったのとは対照的に、中国では“小姐”が水商売に従事する女性を指すようになり、その後、“小姐”の単独使用が避けられる傾向がますます強まった。
- 3) “親愛的”はさらに派生して“亲”のみでも用いられ、独自の発展を遂げている(汲、2020)。中国語においては相手に対する「親しみ」を積極的に表明することも相手に対する敬意を示すことになる。
- 4) 一方で、自分の配偶者を指す表現はどれも定着せず、非常に不安定で変化も激しいというのも興味深い。

## 【引用文献】

- 西香織(2011)「中国語の呼びかけ語の語用論的機能について——出会いのあいさつを中心に——」『中国語教育』第10号, 231-250.
- 鈴木孝夫(1973)『ことばと文化』岩波新書, 岩波書店.
- 汲翔(2020)〈名称詞美女, 姑娘, 亲的语义内涵与使用条件〉《科教导刊》第22期, 23-25.
- 李琼(2015)〈汉语当代社会称呼语的变异研究〉《陕西师范大学学报(哲学社会科学版)》第4期, 168-174.

- 曲卫国, 陈流芳 (2001) 〈汉语招呼分析〉《华东师范大学学报 (哲学社会科学版)》第3期, 116-124.
- 邵敬敏 (2009) 〈“美女”面称的争议及其社会语言学调查〉《语言文字应用》第4期, 71-79.

(にし かおり・明治学院大学教授)